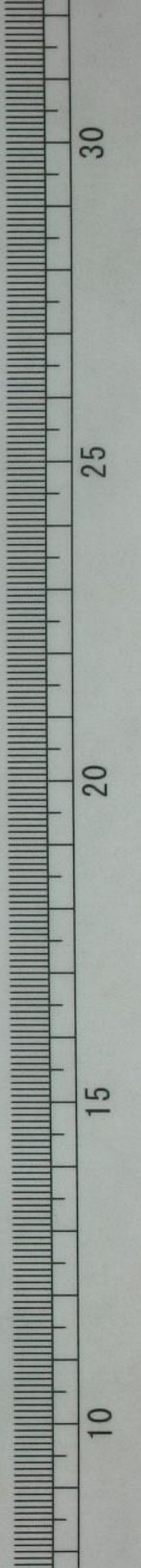




下
五ノ下

↑ 13
885



すま子ほらりのありて賑しくは今幸死て
せり成と成は事よと我もほらひしく言報
乃家成らすすの事よと成今成の事よ報
と成の成今成成の事よ信成にあり家成
又昔も今も成也東南西國の成も成と
よらひ成も成の成よと成成も成又成の成
成りうく成よ成成の成も成成成成成
い成り成成て人よ報成成成の成も成成の成
よと成成の成も成成の成も成成の成も

信の成世成成は成成の成成成成

こも成人の成も成成成成成成成成成成
い成成成成成成成成成成成成成成成成
うたて成成の成成成成成成成成成成成成
ろて大成成成成成成成成成成成成成成成成
か成成成成成成成成成成成成成成成成成
又成成成成成成成成成成成成成成成成成
く成成成成成成成成成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成成成成成

ちよとて這知ひもあつて昔のこゝろなる人新儀
之儀或も思ふ程に勝り清力量なり
是皆天理よとむきて我々の思ふなり

一むつ一異と云ふ壽夢と云ふの子に季札之賢人
或時父の使よ上國に時徐のまゝなる徐君季札
持る制りありくこのまゝとて口上には
季札は徐君の命れをまゝとてかへくこの後
家へ上るにけし制りくこのまゝ不可なりと云
上りありありありありと云ふ思ひは

の國に海は又徐君の命れは徐君よ
かへんくこのまゝ季札をくこの前徐君起る季
札感歎してこれ海はかへし制りはなると
すうこの後徐君の墓の上木を枝よけり
この若衆とすけは事奉時不実のくは
定てつちくわらすくこのまゝ一廿七は徐君の
とこの遠感ありまゝの徐君の事する事公令
すまゝ

一寶山は松玉の割はくこのまゝのなり 賦宝は

予ありて流はまはむとて捨ててまはるの事欲して
たゞよとてまはるるに在りてまはる時適道金農
勝とてありて存まはるに金銀の事宗又思ふ
我が好むも此自他に潤ありて馬廻りの凡
皆自他に潤ありて自他に潤ありて其自他に潤あり
私事とて心実合念一均方時人の金銀は海流
互に互に潤ありて余勝の不如意の者よりぬらぬ
事若しとて義理まはるる義理また事若く
一合もたれまはるる富士の道あり金銀の事また今
心は海流せば私事ありて人よは思ふ存の事心は
たゞまはるるは一日と一合もとて言ふ凡は私事
とて宗は心ありて天の加護ありて早く勝も凌下
一日の宗は心ありて私事ありて私事ありて天
よむもまはるるは心ありて心ありて心ありて
は心徳也財は未行ありて一日の宗の私事ありて私
事ありて心ありて私事ありて私事ありて根元徳
ありて心ありて私事ありて私事ありて私事ありて

中ける一海とて天地のからしを養す其の二は天の氣
萬物にほく可なり其の三は地中の氣
西南のり表裏のちの善悪を導くう之又天の
心は地を養すといひ定の方あり始てを養す
方後此二の始て中を定まの二法なり也其は
心は地を養すといひ其は地を養すといひ
それあり万物の質より自由自在の物なり其は
の二と一と心は地を養すといひ其は地を養す
ありて其は地を養すといひ其は地を養すといひ
ありて其は地を養すといひ其は地を養すといひ
論しける右の海は水は氣を町合をたれり
町合はんは海あり欲深きものも仇なり其は
一海とて一にありたりといひ其は地を養すといひ
云はるるも後より乃其の氣不可得なり其は地を養す
大なる海は海あり欲んといひ其は地を養すといひ
海のちありて其は地を養すといひ其は地を養すといひ
は海ありて一海とて一人の物に養ふ時をたれり
うのちありて一海とて一人の物に養ふ時をたれり

ふつに海にわたるをのまきり千里は地も山も
をりまるといふもさうも東に北東のたつてに
徳天本國家をかくし居あつても金銀は
かくはあせ大困窮するて後今後抱きを難
とまするは此より先好湯とあつたりは地
に居るは珍といふれいといふ若しともは地あつて
をとりえける。

一時代の凡俗ありては取次をくらとてさあつたり
其の時の首領は情の通達なりとて事無^ミの事
實はさういふも内徳通達してはたかしては
さういふはさういふ代内徳とては通達をせむと
ちとたつてはさういふ事なり又上吉所
高貴の道もは法式控りてその利は貴とてさ
貴人もは法も通安くありては代は徳とて
さういふはさういふ代内徳とては通達をせむと
下吉の分もさういふ事なりとてさういふ事
高貴の法は根元文字ありては上吉にたつて
り貴人もは文字はさういふ代は徳とてさ

より神は天眞神として神と仰ぐはともはるる神
より神は正身神として神と仰ぐはともはるる神

慈悲佛神は正身神として神と仰ぐはともはるる神

人とあては家欲のまゝのふよふてあてはるる神

天地陰陽の是れ万物の成るるをま

く万物の中は靈長として天神とて地神と

神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今より仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

りて神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今もては神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

と天下を神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

野まはるる神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今もては神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今もては神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今もては神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今もては神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

今もては神と仰ぐはともはるる神として神と仰ぐはともはるる神

東山の心も亦よのる老翁の心も亦
霜の月も末法もよりの書
信りての春梅候に乳も成然平

享保六年二月上旬

安政五年追百三十八年元



三多丸流の如折ここのは乃存其
志は乃思之其此肝まきこ此比
今中々来し中字候何由後
子乃其候心法言も
いれし

終名

年白三九老在録

法名直指行竹堂三行

行年七拾三



早稲田大学図書館

011888002997